

## 式 辞

厳しかった冬の寒さも和らぎ、木立にさえずる小鳥の声にも春の訪れを感じさせる今日の佳き日に、本校にゆかりのある多くの方々のご臨席を賜るとともに、保護者ご家族の皆様のご列席のもと、平成27年度兵庫県立宝塚高等学校卒業証書授与式を挙行できますことはこの上ない喜びであり、深く感謝申し上げます。只今、235名の卒業生に卒業証書を授与いたしました。

卒業生の皆さん、卒業おめでとうございます。

51回生として3年間学び県宝の伝統を引き継ぎ、後輩へとバトンタッチする役目をしっかり果たし、今ここにいます。そしてそれぞれの進路に向かって羽ばたこうとしています。

教育理念を「人づくりの県宝」として、本校では、学業、学校行事などの体験活動、部活動等をバランスよく行い、将来社会人として生きていくための基礎力を身につけて欲しいとの思いで教育活動を行ってきました。

皆さんが、学校生活の様々な場面を通じて、仲間との友情を育くみ、心身が鍛えられ、成長していく様子は非常に頼もしいものでした。そして、学業のみならず部活動や学校行事にも全力で取り組む姿は、私たち教職員にとって、誇りであり、エネルギーの源でした。私たちは、そのたゆまぬ努力に敬意を表するとともに、この県宝において皆さんと出会い、ともに考え皆さんの学びと成長を見ることができたことに大きな喜びを感じています。

さて、今社会は、環境問題、エネルギー問題、グローバル化、少子高齢化、自然災害など多くの課題を抱えています。また将来、人工知能やロボットの進化により職業や雇用の変化など未知の課題にも直面しています。皆さんは、自分の周りにどんな変化があらうと、どんな困難なことが立ちまわっていても、しっかり生きていかなければなりません。

県宝で学んだことを、応用し活用する中で、さらに自分を伸ばし、人間的な魅力を増やして大人になっていって欲しいと強く願っています。常々お話ししていたことですが、「考え続ける」ということを、餞（はなむけ）の言葉とします。常に「人間として本当にこれでいいのか」と自分自身に問いかけて、「悩みながら考え続け」てください。いろいろ考えていると不思議なことに、思いがけない事が起きたり、大切な人に出会えます。単なる偶然ではなく、自分の意志の力が加わった、意味のある偶然 運命的な出会いとなります。「うまくいなくても、考え続けること」で、必ず自分に一番ふさわしい道が開けてきます。

そして、考える際には、自分と他との関係を大切にしてください。他とは、家族、友人、先輩・後輩、近所の人、自分の周りの人そして自分の周りのものすべてです。人間は一人では生きていけません。何かやり遂げようと思ったら、絶対に一人ではできません。心のよりどころとなる人や物に支えられて生きています。そして自分も他の誰かの支えになっているはずです。このような関係を築くには何が必要でしょうか。このことも皆さんにはいつも「考え続けて」欲しいと思います。

終わりにりましたが、ご列席の保護者の皆さまには、お子様のご卒業、誠におめでとうございます。心よりお喜び申し上げます。また、本校の教育活動に関し、ご理解とご支援を賜りましたことを心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

卒業生の皆さん、県宝生として本校で学び、生活したことを誇りにこれからの人生を歩んでください。教職員一同、皆さんが夢を実現し信頼される立派な大人として、社会や地域に貢献してくれることを、そして、県宝の良き応援団として本校を見守ってくださることを願っています。皆さんの輝かしい前途に幸多かれと祈念し、式辞といたします。

平成28年2月26日

兵庫県立宝塚高等学校長 下野 厚子